

## 鉄槌を下せ！ 教条主義的教授に

大学教授たちは、舌の先だけで、平和と民主主義を講義する。それも教条主義的にである。そしてまた、舌の先で社会主義を講義する。社会化すなわち国有化であるといった風の、ウソの、まったく誤った社会主義を。

その重大なあやまちを、官許御用学の東大とその亜流大学の教授たちが犯している。未発達な市民社会意識の持主であることを、見事に暴露しているものである。

学生たちは、ただ理論的に、原理的には、これらの教条に対決しうるほどに成長していない。しかし、学生たちは、育ってきた青年としての新しい感覚で、そのような教授たちがニセモノであることは、すぐにかぎわけてしまうのである。

教授たちには日共支持者が多い。日共支持の教条主義者たちに、鉄槌を加えんとする反日共系学生たちに拍手をおくるノン・セクト学生が少くないのは、純心な学生の感受性がそうさせるのであろう。

### 《軽べつされる教授たち》

中大の場合、そんな日共支持の教条主義的教授が、教授会を支配している。大学の自治は、それら教条主義者の自治になっている。

元来が、ドイツ国家主義大学制度を模倣し、教授の自治が、大学の自治であると信じている。英米式の理事会制、法人制になっていない。これに日共支持の教条主義者が根を張っているので、教授会が全体主義体制下におかれるのは必然である。

全体主義と官僚主義の合体している大学自治と、全体主義者と官僚主義者が形成している教授会とが、なんらの改革も加えられないで存続する限りは、中大の紛争は永遠に絶えないだろう。

反日共系全学連が、そのような教授会に批判、攻撃をかけ、大学解体のゲバ棒を振るうのは、これまた必然である。

すでに、一般学生が、授業再開に直面してとってきた無責任な教授会と教授に対して、非常な不信の念をたかぶらせてきた。

中大の教授たちは、夜の自治会や昼間部の民青学生とは討論するが、ノン・セクトの学生には呼びかけていない。学生たちの前面に出ようとしない。民青的學生にあらざれば中大生にあらずと一般学生を軽視して、一カ月以上も時日を空費している。その不信が学生間につのり、事務職員まで、怒りを発し、軽べつするようになった。

### 《日共に売り渡す大川一派》

そのような全体主義者、管理能力のない教授たちに、迎合、彼らを尊重する学員会長大川博一派は、中大を日共に明け渡す役割を演じているのである。さらに鉄槌を下すべきものは、大川―井上（元中大学長）ラインである。

昭和四十四年五月二十日

大学改革連盟・中大班

# 大学改革連盟 中大班